

〔江別市〕施策達成度報告書

政策 04 安全で快適な都市生活の充実

施策 03 危機管理の強化・充実

主管課 総務課参事 (危機対策・防災担当)

施策の環境変化と課題

施策の環境変化 (22年度)	施策の課題 (22年度)
<ul style="list-style-type: none"> ・短時間集中豪雨や過去にない強さの台風発生など自然環境変化の関連性も指摘されており、都市型災害などに対応する必要性 ・高齢化、独居、在宅介護等の要援護者の増加 	<ul style="list-style-type: none"> ・発災時の状況など自然環境や高齢化等の社会環境変化の要因がみられるので、減災の観点から地域に根ざした自助、共助の枠組みづくりが課題となる。

施策の目的

行政・市民・関係機関が一体となって危機管理体制を構築し、各種の自然災害や人為的事象に対応可能なまちづくりを進め、市民の生命と財産を守り、被害を最小限にします。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

災害から市民の生命と財産を守り、被害を最小限にする。

施策の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
危機管理対策が充実し安心と思う市民割合	%	8.8	13.3	-		↗

施策の達成状況 (22年度)

行政と外部機関は、平時からの相互訓練・情報交換により連携体制を構築している。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	193,261	196,975	197,991
事業費(千円)	151,768	143,779	143,819
人件費(千円)	41,493	53,196	54,172

01 治水対策の強化

基本事業の目的

市内の河川の改修・補修を行い、水害の起きにくい河川にします。また、内水による湛水被害を縮小するための施設整備を行い、危険な箇所を減らし市民が安全に暮らせるようにします。

対象 (誰を対象とした指標か)

江別市内の河川、内水排除施設

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

堤防の決壊などや内水による湛水被害を縮小する。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
36時間で総雨量125mmの降雨があったと想定した場合の湛水面積	h a	338	338	338		338以下

基本事業の達成状況 (22年度)

H 2 2 年は想定した降雨はありませんでしたが、堤防整備などの治水事業が進捗しており、湛水面積は減少しているものと推測している。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	138,332	130,680	133,148
事業費(千円)	127,128	116,172	118,485
人件費(千円)	11,204	14,508	14,663

02 耐震施設の整備 促進

基本事業の目的

収容避難所である公共施設の耐震化を進め、地震に強い施設とすることで、安心して避難できるようにするとともに、市内の建築物の耐震への対応を促進し、地震による被害を最小限にとどめるようにします。

対象 (誰を対象とした指標か)

公共施設、市内の建築物

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

地震に対する被害を最小限に留める。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
公共施設の耐震化率	%	21.2	30.3	42.4		72.0
民間の住宅及び特定建築物の耐震化率	%	85.2				88.0
民間特定建築物の耐震化率	%		82	82.7		87.3
民間住宅の耐震化率	%		79	79.6		86.3

基本事業の達成状況 (22年度)

S 5 6 年度以前に建築された建物は、耐震調査が必要となることから公共施設のうち、災害時指定避難所となる学校施設を中心に耐震調査を行っており、H 2 2 は市役所本庁舎のほか2校の耐震診断を実施。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	10,284	403	6,817
事業費(千円)	3,645	0	300
人件費(千円)	6,639	403	6,517

03 防災意識の醸成

基本事業の目的

避難場所の周知や防災訓練を行うことにより、市民の防災に対する意識を高めるとともに、自らの命は自ら守ることを基本に地域での連携を緊密にし、災害時に迅速な行動ができるようにします。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、自治会

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

防災に対する意識向上、地域住民との緊密な連携により行動が行える。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
自主防災組織等の防火・防災訓練参加者数	人(累計)	4,700	3,207	5,757		25,000
防災訓練等を実施した自治会の割合	%	31.7	17.1	12.2		37.0

基本事業の達成状況 (22年度)

自治会による訓練実施回数、自治会連合会による訓練実施回数とも微減となっている。江別市防災訓練を展示訓練から地域密着住民参加型へと変更したため、大幅減となった。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	0	0	0
事業費(千円)			
人件費(千円)			

04 危機管理機能の強化

基本事業の目的

自然災害や人為的事象発生時に避難場所を確保し、備蓄を行うことで災害時に市民が安全に避難でき、生命が守られるようにします。

対象 (誰を対象とした指標か)

市民、企業

意図 (対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

災害時に市民が安全に避難ができ、生命の維持が確保される。

基本事業の目的をあらわす指標の動き (成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	後期目標値
家庭における生活物資の確保率	%	36.5	38.0	-		↗
避難場所を知っている市民割合	%	67.9	73.8	-		↗

基本事業の達成状況 (22年度)

収容避難所は、地域別に学校・地区センター等公共施設を中心に全人口の50%弱の収容が可能となっているが、過去に発生したわが国の大規模災害におけるピーク時避難率(被災地の全人口に占める避難者数: 10~30%)と比較しても、江別市の避難所収容能力は高い水準にある。今後は避難所の拡大ではなく耐震化等避難施設の質の向上を図る必要がある。

基本事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度当初予算
トータルコスト(千円)	17,082	28,458	27,822
事業費(千円)	5,465	11,129	8,272
人件費(千円)	11,617	17,329	19,550

主要事業一覧(施策別平成22年度予算)

◎は実施計画事業を、○は主な臨時費を示す。人件費B欄は、各事業へ703人(H22.1.1一般職員数)分を振り分けている。
1人当たり平均単価8,328千円は「一般職総額5,871,246千円/705人(H22.4.1一般職員数)」で算出している。

(単位:千円)

政策 施策	主 な 事 業	事業費 A	A の 財 源 内 訳					主 な 内 容	人件費 B	総額 A+B
			国	道	市債	その他	一般財源			
04	安全で快適な都市生活の充実									
03	危機管理の強化・充実									
	◎ 河川等維持事業	8,600					8,600	クツタリ集水路浚せつ工事他	1,249	9,849
	◎ 排水機場維持管理事業	48,234	13,074	1,629		2,106	31,425	排水機場及び水門の運転・維持管理(18排水機場、1水門)	2,498	50,732
	◎ 地域防災力向上支援事業	2,591					2,591	防災あんしんマップの印刷更新、避難所標識の設置及び補修、災害用備蓄品の購入(毛布等)、災害 時要援護者避難支援制度の推進	10,826	13,417
	○ 国民保護法制関連事業	95					95	江別市国民保護協議会開催、避難実施要領に基づく各種マニュアルの作成	2,082	2,177
	○ 排水機場等改修事業	2,400					2,400	神田排水機場屋上防水工事	833	3,233
	○ 基幹水利施設管理事業(お茶の水分)	26,940	8,264	8,133		10,543		お茶の水排水機場維持管理経費	1,666	28,606
	○ 耐震化推進支援事業	521					521	【新規】耐震相談、耐震診断補助金他	6,246	6,767

※平成22年度予算金額です。